

2006年9月11日

QSSレポート（QUICK 株式月次調査結果）をリリースいたしました

QSSとは

QUICK Survey System：QUICKでは、相場見通しや注目している材料、投資スタンスなどを毎月、株式・債券の両市場関係者にアンケート調査をしています。

株式の場合は注目するセクターなど、債券の場合はデュレーションなど、毎月同じ設問をすることで、「強気」「弱気」などのセンチメントの変化を見ることができます。同時にタイムリーな話題を取り込んだ質問を設け、市場の注目点も探っています。

【9月調査概観】

【調査期間】 9月5日～9月7日

【調査対象】 証券会社及び機関投資家の株式担当者295名

【回答者】 192名(回答率65.1%)国内証券69、外国証券5、投信投資顧問51、銀行24、信託銀行11、生保18、損保8、その他6

景気・企業業績への注目度が上昇

回答者の予想株価のカーブは、前回調査と比べいずれも上方にシフトしたものの、今後半年間の予想株価上昇幅は縮小した。注目要因を見ると、引き続き景気・企業業績への注目度および相場に対する期待度が最も高く、政治・外交、金利動向、為替動向もニュートラルを示す50を上回り、すべての要因がプラス要因となった。要因すべてが50を上回ったのは2005年12月調査以来のことである。投資主体別では、最も注目されている外国人へのプラス主体としての期待度が上昇を続けている。投資スタンスは、現在のウエートはオーバーウエートに傾いており、今後やや引き上げのスタンスがとられている。セクター別では、「オーバーウエート - アンダーウエート」で見て、金融のマイナス幅が拡大、鉄鋼・機械のプラス幅も縮小し、一方、自動車はマイナス幅を縮小しゼロに近き、建設・不動産もプラス幅を拡大した。

北越製紙に対するTOBIは株式市場に「プラス」33%

王子製紙の北越製紙に対するTOBIについて、北越製紙の株主だったとしたら51%が「応じる」と回答した。また、三菱商事の株主だとしたら、北越製紙の第三者割当増資の引き受けを「支持しない」が67%、さらに日本製紙の株主とすれば、北越製紙株買い増しを「支持しない」が71%を占め、今回の一連の動きに対して否定的な見方が示された。なお、株式市場へは「とくに影響はない」が48%と半数近くを占めているものの、33%が「プラス」であるとの評価をしている。今後、わが国でTOBIは「増える」が94%と見方は一致した。